

進路指導実践事例

学びたいことを見つける 学問分野研究

多くの学校で1学年が迫られる、文理選択や、コース・科目選択。
どうすれば今の興味・関心を学びたい学問につなげ、さらには進路につなげていけるのか。
常に生徒たちに問い続ける、先生方の取り組みをご紹介します。

取材・文／永井ミカ

図1 進路指導で実施している高大連携の
取り組み事項(2010年、大学進学率別)

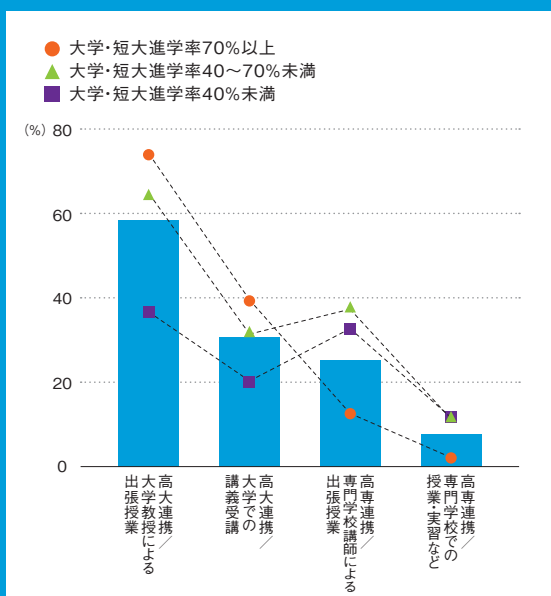
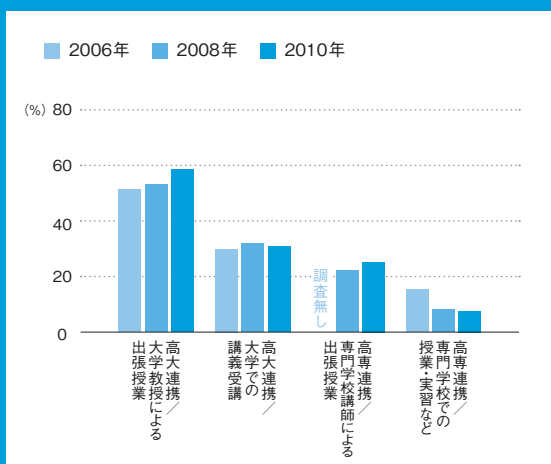


図2 進路指導で実施している高大連携の
取り組み事項(年度別)



※弊社「2010年 高校の進路指導・キャリア教育に関する調査」より(調査時期:2010年10月
調査対象:全国の全日制高校の進路指導主事)

時期のすり合わせが難しい
大学との連携

学問研究といえば、最近では大学教授などを招いての模擬授業を行っている学校が多く、58・4%に上る。進学校ほど実施率が高いが、大学進学率40%未満の学校だけで調べても実施率は36・6%と決して低くはない。経年で見れば4年間で7ポイント上昇している。また、大学に向いて講義を受けさせる学校も30・7%に上る。「大学についてきちんと調べないまま入学していく生徒がいる。進路を考える前に必ず学問やキャンパスの雰囲気に触れさせたい」という先生は多いのだ。

ただし、その内容については、必ずしも満足いくものではないようだ。今回、電話での聞き取り取材を行うなかで、講師の人選や実施する時期について、大学と折り合いをつけるのが難しいという声も聞かれた。例えば、文理選択をするのが1年生の秋。高校側はその前の1学期の期間に大学の学問に触れさせたいが、大学側は秋以降の実施を希望しているというケース。少なくない数の高校が、文理(またはコース)選択の前に一度、大学や学問に触れたい考えたりさせるための取り組みを模索している様子が感じられた。

流の今、それを秋までに終わらせようとする、かなりの無理が生じてしまう。

課題研究を通して
興味・関心を学問に変換

一方で、文理選択とは切り離して考え、学問に触れ考える機会として課題研究を行っている学校も。生徒が興味ある事柄を学問に変換すべく、いきいきと研究に取り組んでいる様子が取材からわかった。課題研究がそこで完結してしまうのではなく、進路志望のミスマッチに気づくことも含めて、文理選択後のもっと絞り込んだ学部学科研究につながっていくケースもあり、今後増えていきそうだ。

7月の学校企業見学と10月の講話で 1年生のうちに学問について考えさせる

たかはた

— 山形・県立 高島高校 —



進路指導主事
川合博之先生

School Data

総合学科 / 1922年創立
生徒数 / 337人(男子135人、女子202人)
進路状況(2010年度実績) / 大学15.1%、短大25.2%、
専門学校38.7%、就職19.3%、その他1.7%
山形県東置賜郡高島町大字一本柳2788
TEL 0238-58-5400
URL <http://www.takahata-h.ed.jp/>

**工学部の研究室で実験を見学し
まずは学問の一端に触れさせる**

1922年に実科高等女学校として創設され、2004年度に普通科から県内4番目の総合学科に改編された山形県立高島高校。全国的にも珍しい4学期制を取り入れているほか、外部講師による講演・講話、高大連携、ボランティア活動の学修化など、キャリア教育充実に向けたさまざまな取り組みを行っている。

そのなかで学びたいことを見つけ、その目標に向かって自分の時間割を作っていくことになる生徒たち。2年、3年の学びのプログラムを立てるため、1年次の「産業社会と人間」の授業の中であるべく多くの体験をさせたいと考えた。

まず1年次7月上旬に実施しているのが「学校企業見学」。この時点ではまだ生徒が進学か就職か、また大学が専門学校かなどで迷っているため、進路志望に関係なく全員で大学と企業の両方に見学に行くものである。

特に、秋の科目選択前に大学というものに触れさせたいという思いで、大学訪問は山形大学工学部と東北芸術工科大学の2カ所を実施。山形大学では、1年次生120人が6班に分かれて、有名教授の研究室を30分ずつ3カ所訪問し、大学院生に有機EL、超伝導、ロボット操作、燃料電池などの実験を見せてもらう。もうひとつの東北芸術工科大学では、全体講話や先輩講話のあとキャンパスを見学。学食を体験するなど、こ

らの目的は大学の雰囲気を感じることだ。

「科学の楽しさや面白さを知ることができた」次には自分の興味のある大学を積極的に調べてみたい」など生徒には非常に好評。進路指導主事の川合博之先生も「まだ何も知らない生徒たちに、まずは大学をイメージさせるというねらいは達成できた」と言う。しかし「この後、どんな学問分野を志望するのか絞っていくためにはさらなる取り組みが必要」とのこと。さまざまな学問分野へ進んだ卒業生の講話など、知的好奇心を刺激する取り組みを試行している。

講師の人選にこだわり 生徒の心に揺さぶりをかける

もうひとつ、科目選択決定のための個別相談に入る10月に設けられているのが

「大学の先生の講話」だ。ここでこだわっているのは人選で、川合先生は「教員が実際に本を読んだり講演を聴いたりして、1に感動、2に面白い、3に熱い思いを語ってくれる講師を探し歩いている」と言う。「社会への関心と夢を持つ」ということをテーマに話せる人材を発掘。このときに、経済的な理由で進学をあきらめないようにも話してもらった。

「メディアの発信する派手な情報などから安易に進路選択をしてほしくない」と思い、理系、文系、看護医療、福祉、農業とさまざまな分野から人選しています」と川合先生。この講話が終わると、いよいよ科目決定のための個別面談に入る。「たくさん大人のアドバイスをしっかり聞き、何のために学ぶのかきちんと考え選択してほしいと思います」

1年次「産業社会と人間」年間計画

学期	月	日	内容	時数	授業形式
1学期	4	13	「産業社会と人間」オリエンテーション	2	講義
		20	進路講話 キャリアプランニング	2	講演
		27	「私の決意」発表会	2	体験的学習
	5	11	履修計画に向けて ガイダンス	2	講義
		18	ボランティア体験学習 事前学習「オリエンテーション」	2	作業的学習
		25	ボランティア体験学習(午前)、まとめ・お礼状作成(午後)	6	体験的学習
6	1	進路について考える①「ライフプラン作成」	2	作業的学習	
	8	進路について考える②「ライフプラン作成」	2	作業的学習	
	15	社会人講話①「働く意味を考える」	2	講演等	
	22	いのちを耕す体験事前学習(映画「いのちを耕す人々」視聴)	2	講義等	
	6	いのちを耕す体験(午前)、まとめ・お礼状作成(午後)	6	作業的学習	
2学期	7	13	学校企業見学 まとめ・感想	6	体験的学習
		20	科目選択ガイダンス①(教務課長より)	2	講義等
	8	24	科目選択ガイダンス②(授業見学)	2	体験的学習
		31	科目選択ガイダンス③(各教科からの説明)	2	講義等
		7	科目選択ガイダンス④(カウンセリング)	2	カウンセリング
9	科目選択ガイダンス⑤(カウンセリング)	2	カウンセリング		
3学期	10	28	先輩講話①「OB・OG講話」	2	講演会
		5	平清水焼き体験	2	体験的学習
	11	19	大学の先生の講話①	2	講義等
		26	大学の先生の講話②	2	講義等
		2	社会人講話②「国際理解講話 ルワンダの教育を考える会」	2	講義等
	12	9	社会人講話③	2	講義等
		16	働く意味について考える①	2	講義等
4学期	1	30	働く意味について考える②	2	講義等
		14	先輩講話②「3年生による講話」	2	講演会
		11	学習活動振り返り① 班分け・テーマ設定	2	グループ学習
	2	18	学習活動振り返り② 「グループ討議」と「発表準備」	2	グループ学習
		25	学習活動振り返り③ パワーポイント作成	2	グループ学習
		1	学習活動振り返り④ パワーポイント作成	2	グループ学習
2	15	学習活動振り返り⑤ 発表会リハーサル	2	グループ学習	
	22	学習活動振り返り⑥ 「産業社会と人間」授業成果発表会	2	グループ学習	

AO・推薦入試対策から始まった 学問分野別研究をキャリア教育の柱に

— 岡山・県立 勝山高校 —



進路指導課 課長
吉原啓之先生



キャリア教育推進室 室長
坂手祐子先生

School Data

普通科・ビジネス科 / 1911年創立
生徒数 / 469人(男子218人、女子251人)
進路状況(2010年度実績) / 大学70.9%、短大3.8%、
専門学校12.0%、就職10.8%、その他2.5%
岡山県真庭市勝山481
TEL 0867-44-2628
URL <http://www.katuyama.okayama-c.ed.jp/>

キャリア教育推進室を立ち上げ 進路指導課と協力体制を構築

自ら進路を切り拓き国立大学などへの進学に対応した学力を身につけることを目標とした普通科と、体験・企画・奉仕活動などを重視するとともに高度な資格取得を目指すビジネス科の、2つの科を持つ岡山県立勝山高校。古くから商業科(現ビジネス科)があることから地域とのつながりが深く、地域に貢献できる人材の育成に力を注いできた。

同校では、今年度からキャリア教育の充実を図るため、キャリア教育推進室を立ち上げた。主に3年生をフォローする進路指導課と、1、2年生をフォローする推進室が協力体制をしき、単発で行われてきた取り組みを3年間を通したキャリア教育としてまとめようとしている。

その核となるのが学問分野別研究。もともとは2006年に県の学力拠点形成事業の指定を受けて「AO・推薦入試等に関する研究」を行うなかで始まった取り組みで、07年度からは1学年が「職業研究」、2学年が「学問分野別研究」としてグループ研究を実施。2月に選抜グループによる大規模な発表会を行うという取り組みにまで発展した。

「生徒はおおむね真摯に取り組んでいます。これまでの進路志望はあこがれだけで、本当にやりたいことが別にあることがわかったなどという生徒もいます。しかし2年連続で研究するのにもかかわらず、

研究を積み重ねて実際の進路選択に結びついていく生徒は意外と少ない。私たちがら見ても、もっと深く追究できるのでは？もっと進路と結びつけていけるのでは？など、もったいないという思いがありました」と、進路指導課課長の吉原啓之先生は言う。

フィールドワークを取り入れ より深い研究内容に

生徒たちがより深く研究に取り組めるよう、今年度からはインターネットなどで調べだけでなく、地元との協力を得て地域の人に接しながら研究を進めることにした。その中でインタビューやプレゼンテーションの手法など基本スキルも身につけていく。同校で急増しているAO入試・推薦

■ 学問分野別研究に関する生徒向けプリント (一部抜粋)

そのテーマについての課題を考える!

- ①調べる→疑問を持つ→調べる
(繰り返しれば繰り返すほど内容は深くなる)
- ②調べる→理由を考える→調べる
(繰り返しれば繰り返すほど内容は深くなる)
- ③具体的な数値や図などを入れる(知らない人でもイメージしやすく)
- ④身近なことと関連づける(アンケートやインタビューなど)
- ⑤グループとしての意見を持つ(こうすればよくなるはずだ!)

知らない人・興味がない人に伝えるための努力をする!

- ①スライドを簡略にまとめる(細かいところは発表で)
- ②図、写真、グラフなどを利用する(イメージで訴えかける)
- ③専門用語はわかりやすくかみ砕く(知らない人に教えるつもりで)
- ④「見せる」工夫を考える(つかみと笑いも大事な要素)
- ⑤堂々とわかりやすくはっきりと発表する(練習あるのみ)

☆1年生のときに先輩の発表を見て感じたこと

- 先輩の発表のよかったところ
 - ・劇とか使ってやっていたことが良かった
 - ・図や写真を利用していたところ
 - ・わかりやすい大きな声で話していたこと
 - ・ステージでの態度が堂々として良かったし、内容もわかりやすかった
 - ・良い所と悪いところを対比してあってわかりやすかった
 - ・スクリーンだけを利用するのではなく、画用紙なども利用したりしていた
 - ・スライドが簡単にまとめられた文章で、見やすくわかりやすかった
 - ・具体的に例をあげる
 - ・わかりやすくするために、動作や台詞などを取り入れているところ

入試に役立たせるとともに、それを土台に2年生の学問分野別研究をもっと専門的で深いものにし、進路選択へもつなげていこうというのがねらい。なお、ビジネス科はこれまでも小学校への出張エコ授業など地域連携を行ってきた実績がある。たとえば、教育について研究したい普通科の生徒が出張授業に合同参加するなど、ビジネス科と普通科が協力しあう態勢も整えていくことを計画している。

「漫然と調べ学習をするのではなく、1年目で研究したことを、2年目でもっと深く掘り下げてみる。そんな学びを通して学問への興味を深め進路実現へつなげる生徒を増やしたい。5年後、10年後にも、学んだことが生徒の中に残っているような取り組みにしたい」とキャリア教育推進室室長の坂手祐子先生も意欲的だ。

エリア選択から始まる「自分探し」 学習ノートを通じて学問への関心を高める

— 大阪・府立 りんくう翔南高等学校 —



ガイダンス室 室長
橋本啓紀先生

School Data

普通科総合選択制 / 2009年創立
生徒数 / 774人 (男子350人、女子424人)
進路状況 / 卒業生はまだ出ていない
大阪府泉南市樽井2-35-54

TEL 072-483-4474

URL <http://www.osaka-c.ed.jp/rinkushonan/>

学習ノートの一例

自分探しのポイント

- 好きな教科は? ... 社会と国語です。
- 趣味があることは? ... 音楽をすることが好きです。
- 楽しいと感じることは? ... 本を読む、音楽をすることが好きです。
- 注目している出来事は? ... 地震などで人が動物たちとどうしているのか、動物たちの行動、動物と人間の関係などについて。

※赤字は橋本先生のコメント

こうなれば、進路選択への応答も結構は大学以上はほとんど選べる

```

    graph TD
        A[編集者] --> B[新聞社出版局]
        A --> C[出版社編集課]
        A --> D[編集者]
        B --> E[各出版社などの採用試験]
        C --> E
        D --> E
        E --> F[大学(名学部)]
        E --> G[個人]
        E --> H[専門学校]
        F --> I[高校]
        G --> I
        H --> I
    
```

ダウンロード可

総合(各) 学習研究まとめ	この「専門分野」につながる	この「仕事」に関連する知識が学べる
国語	国語、生活科学、日本語学、国語教育論、教育学	国語教育論、生活科学、日本語学、国語教育論、教育学
数学	数学、数論、幾何学、図形、関係学、図形学	数論、幾何学、図形、関係学、図形学
英語	英語学、英会話、英作文、英検、英訳、英訳、英訳、英訳	英語学、英会話、英作文、英検、英訳、英訳、英訳、英訳
社会	社会学、国際関係学	社会学、国際関係学
現代社会、地理、歴史、倫理、道徳	社会学、国際関係学	社会学、国際関係学
理科	物理学、化学、生物、地学	物理学、化学、生物、地学
芸術	音楽学	音楽学
美術・工芸、音楽	音楽学	音楽学
保健体育	保健学、看護学	保健学、看護学
家庭科	生活科学	生活科学
技術	工学	工学
情報	情報学	情報学

上から「自分探し」「職業調べ」「科目調べ」の一部。先生とのコメントのやりとりやワークシートなど、キャリア教育の軌跡をすべて記録し自分を見つめさせる。

6つのエリアの選択が学びたいことを見つける第一歩

大阪府立りんくう翔南高校は普通科総合選択制をとる全国でも珍しい高校。基礎学力を重視しながら、興味関心に応じてエリアと自由選択科目を選び、進路実現の力を育むことを目指した、創立3年目の新しいタイプの学校である。

生徒は2年生から人文考究、理数医療、スポーツ科学、芸術表現、こども・福祉、情報科学の6エリアからひとつを選択。共通履修科目、エリア指定科目、自由選択科目を組み合わせて履修する。そこで、1学年でのエリア選択に向けての取り組みが学びたいことを見つけるための第一歩となるのだ。

それをケアするため、進路指導部とは別にガイダンス室という分掌が設けられている。

ノート上での言葉のやりとりが生徒の「自分探し」を助ける

「入学時点で進学が就職かも決まっていないう生徒たちの心を進路選択に向けての柱のひとつに据えています」とガイダンス室長の橋本啓紀先生。自分探しから始まるキャリア教育の軌跡がすべて残るよう大学ノートをポートフォリオ的に活用。例えば「好きな教科は？」など細かい設問を用意し、生徒に書かせ、橋本先生がそれに答える形で言葉のキャッチボールをしていく(図参照)。1学年全員のノ

ートをガイダンス室長として橋本先生がチェック。生徒の興味関心を探り出して、その後は科目選択を見据え、やはりノートを使って、職業↓学問分野↓高校での教科のつながりを調べる学習を実施。興味のある職業に就くためにはどんな学部に行けばいいのか、その学部に関連する高校での教科は何か(科目選択)という手順で調べさせるのである(図参照)。

こうすることで科目選択が具体的に前に進む。「いいねい」に選べば、2年生からの授業に取り組み姿勢も前向きになります」と橋本先生。課題は「絞る学び」である選択科目は楽しいけれど、「広げる学び」である普通教科の学習が苦手という意識をどうするか。普通教科の大切さを確認できる作業を多く取り入れながら、学ぶ喜びを伝えていきたいと考えた。